

救急搬送分析結果

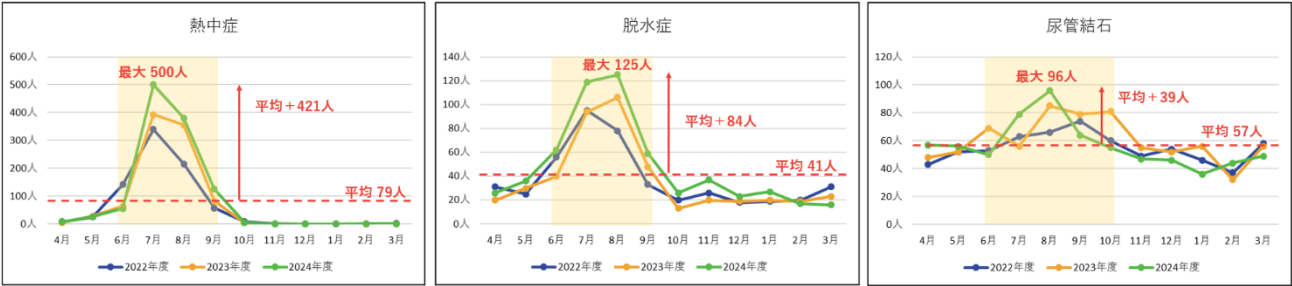
神戸市において2022年度から2024年度に救急搬送された29万2,746人のデータを元に、その病名を季節ごとに分析しました。

その中で、夏と冬に顕著に増加する救急搬送原因をご紹介します。

「夏」に多い救急搬送原因

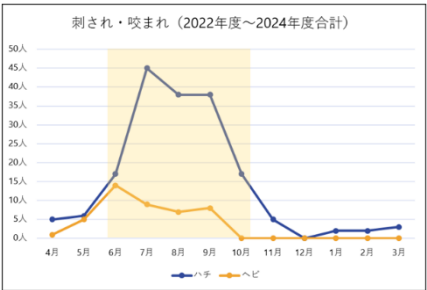
原因1：気温上昇

夏は、気温上昇により、「熱中症」や「脱水症」が増加します。
脱水になると尿が濃縮されて結石の成分が結晶化しやすくなり、「尿管結石」の発症につながりやすくなります。



原因2：生き物による刺され・咬まれ

6月から10月頃にかけて、生き物による刺されや咬まれが顕著に増加します。
この時期は「ハチ」の攻撃性が高まることが知られています。
また、この時期に活動が活発になる「ヘビ」に咬まれる方も増加する傾向があります。



「冬」に多い救急搬送原因

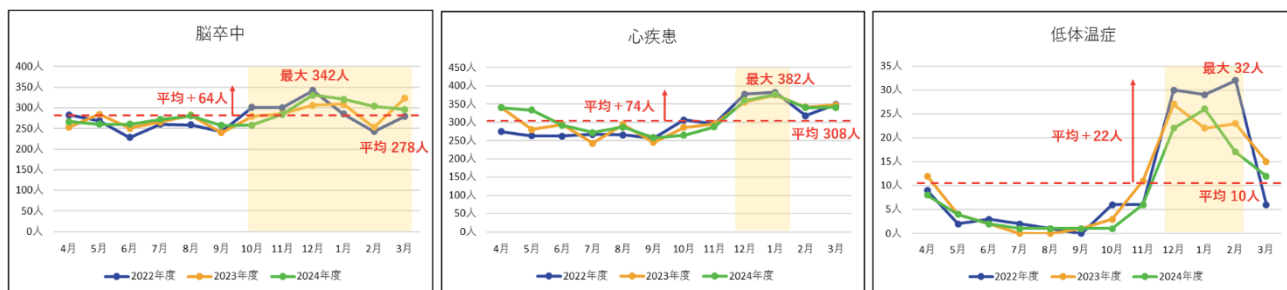
原因1：気温低下

冬は、気温低下により血管が収縮し、血圧が上昇します。

特に、寒い時期には「暖かい屋内」から「寒い部屋や屋外」に移動する際に血圧が急激に変動することで「ヒートショック」が発生しやすくなります。

こうした血圧の上昇やヒートショックにより、「脳卒中」や「心疾患」が発症しやすくなります。

そのほかにも、気温低下による「低体温症」も顕著に増加します。

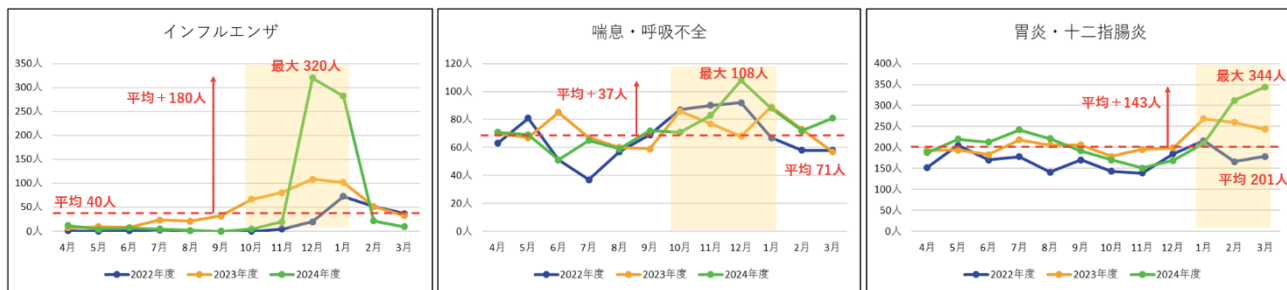


原因2：低温乾燥

低温乾燥環境を好むウイルスによる感染症が増加します。

日本では、例年12月から3月頃に「季節性インフルエンザ」が流行します。インフルエンザなどの呼吸器感染症をきっかけに、「喘息」などの呼吸器系の慢性的な病気が急激に悪化することがあります。

また、「胃炎」や「十二指腸炎」もこの時期に増加します。



「夏」と「冬」に共通して多い救急搬送原因

原因：高温多湿・低温乾燥

夏は高温多湿環境を好むウイルス、冬は低温乾燥環境を好むウイルスによる「風邪」や「感染症」が増加する傾向があります。

また、それに伴い小児の「熱性けいれん」も増加する傾向があります。

